

市政を身近に 令和3年度 第2回定例議会、決算特別委員会にて質疑しました！

生活道路の交通安全対策を！

交通・地域

- ☑ 登下校中に車がからんだ痛ましい事故が発生しているが、子どもが集う施設周辺における交通安全対策は。
- ☑ 生活道路における速度抑制等を目的とした「ゾーン30」の設置基準は。
- ☑ 「ゾーン30」と物理的デバイスとの適切な組合せにより、交通安全の向上を図ろうとする「ゾーン30プラス」について、設置拡充すべきでは。



質疑のポイント

令和元年度に発生した大津市の事故を受けて総点検を行った。ガードレールや歩道の新設、路面へのカラー舗装を行うなど、現場に応じた安全対策を実施してきた。

今年に発生した千葉県の下校中の児童の列にトラックが衝突した死傷事故を受け、関係者で合同点検を実施をした。

10月末までに安全対策の内容を決定する予定である。

「ゾーン30」は兵庫県警が判断し、交通量、交通事故の発生状況、地域からの要望を踏まえて調整の上、市内37ヶ所指定している。（「ゾーン30」整備前後で、事故件数は23.8%も減少。歩行者自転車事故に限れば19.4%減と、事故抑制効果があったと報告）

「ゾーン30プラス」とは、「ゾーン30」に加えて車両の速度抑制や流入抑制効果を高めるために段差のような構造物（物理的デバイス）を設置することで、交通安全の一層の向上を図るもの。構造物により、車のスピードが抑制され、通学児童の安全性が向上するのではないか。警察とよく連携して、地域の声も聞きながら、検討して適切に実施していく。



▶ 大和公園南側の段差（ハンプ）



▶ 須磨区：スムーズ横断歩道

令和2年度各会計決算について

令和2年度各会計予算及び関連議案、合計23件を要望10件を付して認定、承認しました。（要望事項の一例）

- ・新型コロナウイルス感染症の後遺症に悩む市民のため、相談窓口の設置や後遺症外来について早急に取り組むこと。
- ・阪急六甲駅踏切北側の交通安全対策については、横断歩道前にハンプなどの物理的速度抑制策を取り入れるなど、抜本的な対策を講じること。



里山の保全・活用を！

環境

質疑のポイント

- ☑ UR都市機構より須磨区多井畑西地区の土地を神戸市が譲り受けたが、都市部と自然が近接するエリアならではの保全の取り組みが期待される。
- ☑ 発表から1年近く経った現在の進捗状況はどうか。
- ☑ 民間アイデアやゾーニングの導入、他局との連携はどうか。

緑豊かな都市環境の形成を図るために、里山の保全・活用に向けた取組の方向性を、生産緑地の維持、耕作放棄地の活用、生物多様性の保全、竹林の適正管理の4項目で示している。地域住民と意見交換し、地域の歴史や文化にも配慮をしながら、検討を進めていきたい。



▶ 多井畑西地区の里山風景

「里山の保全活用に関する将来像」を令和3年度末に策定する。

様々な話題と課題を取り上げています！

『地域商業活性化支援事業』：商店街や市場全体を明るく快適にするためのハード整備を支援する「クオリティアップ事業」について、灘中央市場に開設されたトイレ休憩所を例に、実績等を質疑しました。新たな拠点では、駄菓子屋さんなどが定期的に活動し、お子さん連れ家族の居場所として活用されています。



▶ 灘中央市場トイレ休憩所



▶ 成徳公園（灘区備後町）

6月の本会議において、神戸市立学校における安全対策について質問をしました。灘区成徳小学校には、学校の校庭や遊具を公園として解放した「学校公園」があります。今後のフェンスの設置などを含めた安全対策については、地域や保護者と協議を行い進めるべきと質疑しました。

『神戸2022世界パラ陸上競技選手権大会』が、ユニバー記念競技場において開催予定です。約100ヵ国、約1,300人の選手が神戸を訪れますが、現在の準備状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を質疑しました。

